

## 様式第7号ア（認定を受けようとする課程を有する大学・学科等における教員養成の目標等に関する書類）

## （1）大学・学科の設置理念

## ①大学

甲南学園は、甲南大学、甲南高等学校・中学校を設置する学校法人である。学園の創立は1919年の旧制甲南中学校開設にさかのぼり、その創立者は平生鈆三郎である。平生は、「真の教育というものは人格の修養と健康の増進を第一義とし、これにそなえるに各人がうけたる天賦の特性を啓発指導するにあり」という教育理念を掲げた。

甲南大学はその目的を「学術の府として広くかつ深く学芸を教授研究するとともに、学生一人ひとりの天賦の特性を啓発し人物教育率先の甲南学園建学の理念を実現すること」（甲南大学学則第1条）としている。その実現のために、下記の能力・資質を身につけ、それらを社会生活において総合的に活用できる人材を養成することを教育目標に設定している。

- ・自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観を意識することができ、自らを律し、他者と協調・協働することができます。
- ・天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。
- ・人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。
- ・専攻分野に関して基本的な知識を修得しています。
- ・自己の意見を分かりやすく主体的に説明する能力を有しています。
- ・事象の中から問題を発見して論理的に考察し、収集した情報を整理・分析し、それらを総合して問題解決を図る意志と能力を有しています。

## ②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

## 理工学部環境・エネルギー工学科

マテリアルは、我が国の科学技術・イノベーションを支える基盤技術であるとともに、リチウムイオン電池や青色発光ダイオードなど、これまで数多くのイノベーションを生み出し、世界の経済・社会を支えてきた。令和3年に閣議決定された「第6期科学技術・イノベーション基本計画」では、「マテリアル革新力強化戦略」に基づき、国内に多様な研究者や企業が数多く存在し、世界最高レベルの研究開発基盤を有している強みを生かし、産学官関係者の共通ビジョンの下、産学官共創による迅速な社会実装、人材育成等の持続発展性の確保等、戦略に掲げられた取組を強力に推進することが謳われている。さらに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、2050年カーボンニュートラルの実現や、健全で効率的な廃棄物処理及び資源の高度な循環利用による循環経済を促し、グリーン産業の発展を通じた経済成長へとつなげることが、喫緊の課題とされている。

このような経済と環境の好循環の創出や、グリーン社会を実現するためには、革新的なイノベーションをもたらすマテリアルが不可欠であり、「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」において示された多くの重点的成長分野で、マテリアルの革新を担う人材が広く求められている。

以上のように、マテリアル系の専門性を持つ人材の需要が高まっており、大学等の高等教育に対して、基礎研究や学理構築に向けた期待とともに、カーボンニュートラル社会の実現に資する学部・学科の魅力向上、すそ野の広い教育環境の提供などを通じて、より一層、優れた人材の供給が期待されている。

このような社会状況を鑑み、現代社会が抱える種々の課題の中でも、環境・エネルギー・資源に係わる課題に取り組むうえで必要な化学・物理学・地学の基礎知識、ならびに環境・エネルギー工学に関する専門知識を教授するとともに、問題解決能力を学生に修得させ、実社会において重要な役割を担い得る高潔で意欲的な人物を育成するため、本学科を設置予定である。

なお、本学科のディプロマ・ポリシーは以下の通り定める。

**DP1【人物教育】**

社会人に求められる責任感と倫理観を意識し、自己管理能力と協調性を有しています。

**DP2【人物教育】**

天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。

**DP3【広い教養】**

人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。

**DP4【専門・知識】**

化学、物理学ならびに地学の基礎知識を修得し、環境・エネルギー工学に関連した専門知識を有しています。

**DP5【専門・コミュニケーション能力】**

自己の考えを論理的にまとめ、相手にわかりやすく伝えるコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を有しています。

**DP6【集大成・課題解決】**

自立的かつ論理的な思考に基づいて問題を発見し、情報の整理・分析を行い問題を解決する能力を有しています。

## (2) 教員養成の目標・計画

### ①大学

建学の理念・目的に基づき、以下のような教員像を具現すべく教員養成を行う。

**【幅広い教養と深い専門性を追求する能力を有する教員】**

本学は、旧制高等学校以来の伝統を有する、文理系8学部及び4研究科からなる総合大学である。その広範囲な専門領域を土台に、幅広い教養を身につけるとともに、各学部・学科における高度な教育を通じて、深い専門性を追求しつづける教員を養成する。人文科学、社会科学、自然科学のいずれの分野においても、そこで得られる知識・技能は、「健全なる常識」を備えた人間が駆使するものでなければならない。

**【専門職として「教える」能力を有する教員】**

学習面や生活面における生徒のつまづきをいち早く察知し、あるべき方向に教え導く能力を有する教員を養成する。教員は、自身の「できなかったことができるようになった」ときの喜びを忘れることなく、常に生徒と共に歩み、彼らの成長を促す指導力を身につけねばならない。

**【生徒の個性を伸ばさせる態度・姿勢を有する教員】**

生徒の個性を引き出し、伸ばさせるために、生徒の人権を尊重し、一人ひとりの生徒に寄り添い、しっかり向き合うことができる教員を養成する。このことを可能とするのは、教員自身の人間的魅力、他者を思いやる気持ち、教員と生徒との間での信頼関係である。

### ②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

**理工学部環境・エネルギー工学科**

本学科では、化学・物理学・地学を基礎とし、環境・エネルギー工学に関するマテリアル系の専門性を身につけるためのカリキュラムを編成する。本学科の基幹教員が担当する科目に加え、理工学部の宇宙理学・量子物理工学科や物質化学科と連携した多様で充実した科目を提供する。さらに、企業と連携した課題解決型科目（PBL科目）や少人数制のきめ細やかな指導による実験・実習科目など、実践的な科目を配置し、専門能力を体系的に修得できる環境を整える。このような学修を通じて、学生の問題解決能力を育み、社会で重要な役割を果たせる人材を育成することを目指す。加えて、実験・実習を通じた総合力の養成を目標とする。

そこで、本学科では、中学校教諭一種免許状（理科）および高等学校教諭一種免許状（理科）を授与しうる教育課程を設置する。この課程は、甲南大学の教員養成の理念である「幅広い教養と深い専門性を追求する能力を有する教員」「専門職

として『教える』能力を有する教員」「生徒の個性を伸ばさせる態度・姿勢を有する教員」を推進することによって、個性豊かで、徳・体・知のバランスのとれた、深い専門知識を有する人間的魅力あふれた教員を養成することを基本としている。さらに、理工学部「自然科学の学問的土台を強固にし、純粋理学と応用科学を融合させて時代の変化や科学・技術の新たな展開に対応して創造力を発揮できる人材を育成する」という教育理念を教員養成にも反映させ、時代の要請に対応する理科教員を養成する。

### (3) 認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごとに校種・免許教科別に記載）

理工学部環境・エネルギー工学科

[中学校教諭一種免許状（理科）]

本学科では、現代社会が直面するさまざまな課題の中でも、環境・エネルギー・資源に係わる課題に取り組むために必要な化学・物理学・生物学・地学の基礎知識および環境・エネルギー工学に関する専門知識を教授する。

そこで、化学・物理学・生物学・地学を基礎とし、環境・エネルギー工学に関するマテリアル系の専門性を身に付けるカリキュラムを編成し、本学科の基幹教員が担当する科目に加えて、理工学部の宇宙理学・量子物理工学科や物質化学科との連携による多様で充実した科目を提供するとともに、企業と連携した課題解決型科目（PBL科目）や少人数制のきめ細やかな指導による実験・実習科目等の実践的な科目を配置することで、専門能力を体系的に学べる環境を整える。

このような学修を通して、本学科では、物理学、化学、生物学、地学に関する専門知識の修得と問題解決能力の向上を促し、社会において重要な役割を担う人材の育成を目指す。

これらの能力は、学習指導要領に記載の教科の目標である「(1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。」「(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。」「(3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。」に通じるものであることから、本学科での学びを中学校理科教育に活かすべく、中学校教諭一種免許状（理科）の教職課程を設置する。

[高等学校教諭一種免許状（理科）]

本学科では、現代社会が直面するさまざまな課題の中でも、環境・エネルギー・資源に係わる課題に取り組むために必要な化学・物理学・生物学・地学の基礎知識および環境・エネルギー工学に関する専門知識を教授する。

そこで、化学・物理学・生物学・地学を基礎とし、環境・エネルギー工学に関するマテリアル系の専門性を身に付けるカリキュラムを編成し、本学科の基幹教員が担当する科目に加えて、理工学部の宇宙理学・量子物理工学科や物質化学科との連携による多様で充実した科目を提供するとともに、企業と連携した課題解決型科目（PBL科目）や少人数制のきめ細やかな指導による実験・実習科目等の実践的な科目を配置することで、専門能力を体系的に学べる環境を整える。

このような学修を通して、本学科では、物理学、化学、生物学、地学に関する専門知識の修得と問題解決能力の向上を促し、社会において重要な役割を担う人材の育成を目指す。

これらの能力は、学習指導要領に記載の教科の目標である「(1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。」「(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。」「(3) 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。」に通じるものであることから、本学科での学びを高等学校理科教育に活かすべく、高等学校教諭一種免許状（理科）の教職課程を設置する。

## I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

## (1) 各組織の概要

①

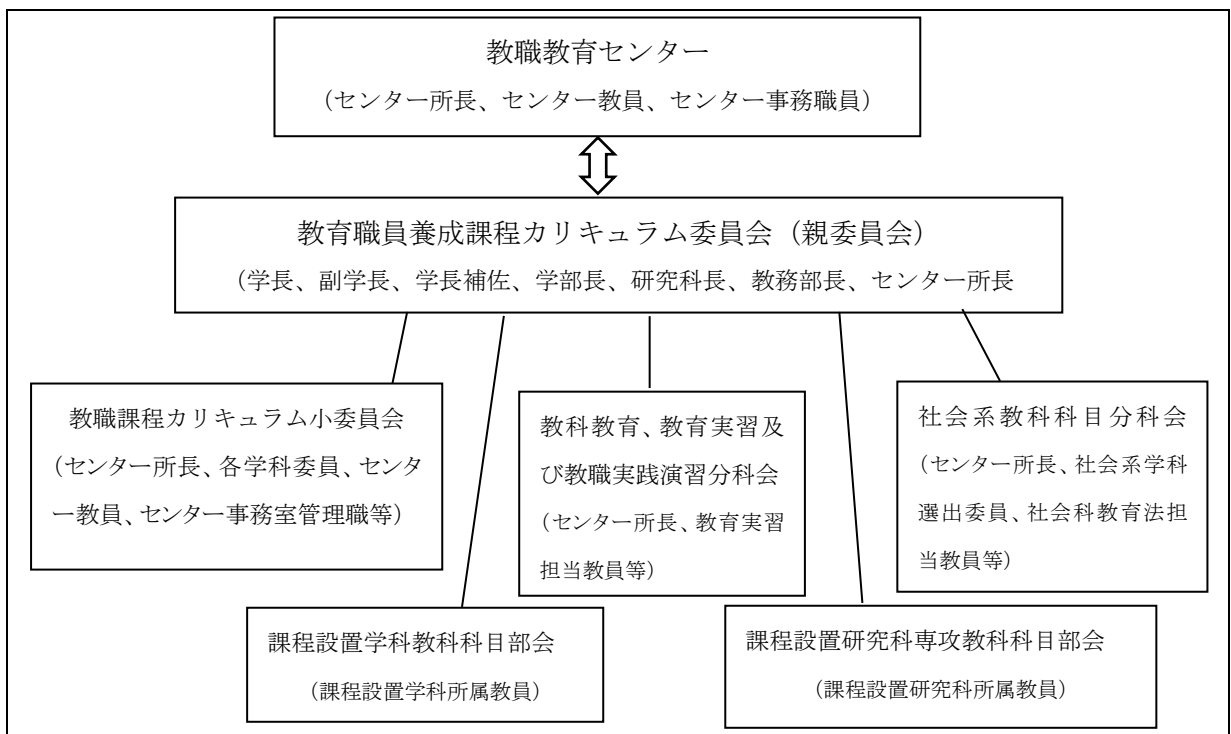
組織名称：	教職教育センター
目的：	本大学の教育目的に従い、教員養成に関する教育と研究を推進するとともに、本大学における教員養成に関する課程を円滑に運営し、教員を志望する本大学学生及び卒業生の教育領域への進出を支援することを目的とする。
責任者：	教職教育センター所長
構成員(役職・人数)：	教職教育センター所長、教職教育センター専任教員(4)、センター事務職員(4)
運営方法：	隔週月曜日に「教職教育センタースタッフ会議」を開催し、教職教育センターの運営について、審議、報告を行っている。 <p>教職課程の運営(①教職に関する専門教育科目の開講と教職課程の全学的調整、②教職課程履修ガイダンス実施や教職課程登録、教員免許状申請手続き、③教育実習・介護等体験の実施、④小学校教諭一種免許状取得プログラム(神戸親和大学通信教育部との提携)、⑤文部科学省への諸手続き(課程認定申請や変更届))や、教員採用支援(①教職指導員による教職指導・教職相談、免許教科別指導體制、②教員採用試験対策講座の実施、③教員採用情報の提供、教育委員会による採用説明会実施、④学校ボランティア・インターンシップ等の推進、⑤卒業生教職員の集い、⑥卒業生教員訪問事業、⑦卒業生教員による講演会、⑧ICT教育推進)等を実施し、本学の教職課程運営の中心的な役割を担う。</p>

②

組織名称：	教育職員養成課程カリキュラム委員会
目的：	教育職員養成課程カリキュラム委員会は、主として教職課程カリキュラムに関する全学的な審議を行う。学長始め、教職課程を設置する各学部長・研究科長等を構成員とする親委員会のもとに、教職課程に関する個別の事項を検討するため、教職課程を設置する各学科選出委員とセンター教員等で構成された小委員会や分科会・部会を設け、教職課程の運営・充実・改善に関して実質的な検討を行っている。
責任者：	学長
構成員(役職・人数)：	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育職員養成課程カリキュラム委員会(親委員会)：            学長(1)、副学長(3)、学長補佐(3)、教職課程を設置する各学部の学部長(6)、教職課程を設置する各研究科の研究科長(4)、教務部長(1)、教職教育センター所長(1)、教職専門科目担当のうち学長の推薦する専任教員(若干名)</li> <li>・教職課程カリキュラム小委員会：            教職教育センター所長(1)、センター教員(4)、教職専門科目担当教員のうちから所長が推薦する教員(若干名)、教職課程を設置する各学科から選出された専任教員各1名(13)、センター事務室管理職(1)</li> <li>・教科教育、教育実習及び教職実践演習分科会：            教職教育センター所長(1)、教科教育法、教育実習及び教職実践演習を担当する教員(非常勤講師を除く。)(8~9)</li> <li>・社会系教科科目分科会：</li> </ul>

<p>教職教育センター所長 (1)、社会、地理歴史又は公民の課程を設置する学科から選出された専任教員 (6)、社会科教育法担当教員 (非常勤講師を除く。)(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課程設置学科教科科目部会：課程設置学科に所属する教員</li> <li>・ 課程設置研究科専攻教科科目部会：課程設置研究科に所属する教員</li> </ul>
<p>運営方法：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育職員養成課程カリキュラム委員会（親委員会）は、次に掲げる事項を審議する（年1回程度の開催）。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 甲南大学の教員養成理念に則した教職課程の編成に関する事項</li> <li>(2) 教職課程のカリキュラムの企画・運営・評価に関する事項</li> <li>(3) 教職課程授業科目の充実及び改善に関する事項</li> <li>(4) 教職課程授業科目間の調整に関する事項</li> <li>(5) その他教員養成に関する事項</li> </ol> </li> <li>・ 小委員会、分科会及び部会は、次に掲げる事項を任務とし、必要な都度開催する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 教職課程カリキュラム小委員会は、教職課程全般の運営・充実・改善に関する事項について検討する。</li> <li>(2) 教科教育、教育実習及び教職実践演習分科会は、教職専門科目のうち、教科教育法、教育実習及び教職実践演習の運営・充実・改善に関する事項について検討する。</li> <li>(3) 社会系教科科目分科会は、教科専門科目のうち社会系教科科目の充実・改善に関する事項について検討し、学科間の調整を行う。</li> <li>(4) 課程設置学科教科科目部会は、各学科における教科専門科目の内容の充実・改善に関する事項を検討する。</li> <li>(5) 課程設置研究科専攻教科科目部会は、各専攻における教科専門科目の内容の充実・改善に関する事項を検討する。</li> </ol> </li> </ul>

## (2) (1) で記載した個々の組織の関係図



様式第7号イ

## Ⅱ. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

### (1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

教育委員会・学校との連携について、以下のような取り組みを行っている。

- ・神戸市教育委員会と連携し、神戸市東灘区本山地区（大学所在地）の小中学校7校との連携。
- ・教職実践演習において、神戸市立本山中学校、本山南中学校と連携。学校訪問を実施。
- ・神戸市立須磨翔風高等学校との連携。
- ・兵庫県教育委員会主催の県立学校中堅教諭等資質向上研修の講座の一部の開講。（講師は教職教育センター教員。）

その他、センター教員が兵庫県内（神戸市も含む）の県立学校や中学校の学校評議員等を務めて、学校運営や学校の教育活動などについて、助言を行っている。

### (2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

取組名称：	学校ボランティア活動
連携先との連携方法：	神戸市、芦屋市、宝塚市、明石市、伊丹市、京都市などと協定を結び、それぞれの自治体を実施している学校ボランティア制度を活用して、学生を派遣している。
具体的な内容：	<p>2年次の教職課程登録以降、神戸市の学生スクールサポーター制度を始め、各自治体を実施する、学校ボランティア活動（教員のサポートや児童・生徒の学習支援等）への参加を積極的に推奨している。</p> <p>特に、神戸市教育委員会との連携により、大学の所在地である神戸市東灘区本山地区（小学校5校、中学校2校）に、2年次後期から3年次前期にかけて、継続的に学生を派遣している。</p> <p>教職教育センターでは、学校ボランティア活動を開始するにあたっての事前面接や学校ボランティア活動報告会などを実施し、活動をサポートしている。</p>

## Ⅲ. 教職指導の状況

本学では、教員免許状取得希望の学生を支援するために全学的組織として教職教育センターを設置している。同センターは、所長・センター専任教員4名・事務室職員4名で構成され、教職課程の設置主体である各学部・学科と連携して、学生の履修指導、教職科目に関する相談等の業務を行っている。教職課程ガイダンスとしては、新入生対象の教職課程ガイダンス、2年次生対象の教職課程履修者登録ガイダンス、3年次生対象の教育実習予備登録説明会、4年次生対象の教育実習本登録説明会と、各学年の始めにガイダンスを実施し、丁寧な履修指導等を行っている。ガイダンスにおいては、履修カルテの自己申告書を記入させる時間を設け、各自の教育実習要件科目や免許状取得に必要な単位の履修状況を認識させるようにしている。

また、校長経験者等の9名の教職指導員が曜日を決めて教職教育センター共同研究・実習室（KTL）に常駐し、各教科指導・小学校連携協定課程の指導・論文指導・生徒指導・学級経営等の指導や教職全般についての相談業務を行っている。さらに、2・3年次生に対しては年4回の免許教科別指導で基礎的な知識・技能を底上げするとともに、3年次2月から4年次の8月にかけて、教員採用試験対策として、「願書・エントリーシート講座」「面接対策基礎講座」「小論文対策講座」「教員採用試験対策講座（1次試験対策・2次試験対策）」等の各種講座を実施し、教員採用試験合格を目指す学生に対して、全学をあげてサポートしている。

## 様式第7号ウ

## ＜理工学部環境・エネルギー工学科＞（認定課程：中一種免（理科））

## (1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国の教員免許状制度のあり方や、本学のプログラムを理解する。</li> <li>・教職の意義や役割について考えることで、教職に就くことの各自の適性について考える。</li> <li>・自然科学分野の基礎科目の履修を通じて、高校で習得した知識の確認をしつつ、専門知識を学ぶ土台を形成する。</li> <li>・通論科目の履修を通じて、幅広い教養と自然科学に関する基礎学力を習得する。</li> </ul>
	後期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員免許状の取得意志を確認する。</li> <li>・教育の理念や思想、歴史を学ぶことで、教育に関わる者の生き方を考える。</li> <li>・引き続き基礎科目の履修により、専門知識を学ぶ土台を形成する。</li> <li>・ラボラトリー・フィジックスの履修を通じて、物理学実験における理論、原理、データの取扱い、レポート作成など一連の実験手法を身につける。</li> </ul>
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員免許状の取得意志を明確にした上で学ぶ。</li> <li>・教職の基礎的理論を学ぶ。</li> <li>・教員となった場合の具体的な指導のあり方について学ぶ。</li> <li>・道徳について具体的な指導のあり方を学ぶ。</li> <li>・専門科目の履修を通じて、環境・エネルギー工学の専門知識を学ぶ。</li> <li>・科学実験基礎の履修を通じて、実験において薬品を取り扱うに当たっての安全とマナーを身につけるとともに、正確かつ効率的に実験を進めるための手法や考え方を習得する。</li> </ul>
	後期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクール・サポーター等の積極的な参加をとおり、教育現場での授業や行事の補助を行いながら、教職を目指す者としての自覚を高める。</li> <li>・引き続き専門科目の履修を通じて、環境・エネルギー工学の専門知識を学ぶ。</li> <li>・ラボラトリー・ケミストリーの履修を通じて、化学実験における理論、原理、実験操作、データの取り扱い方および解析方法を学ぶとともに、レポート作成を通じて論理的な思考力を身につける。</li> </ul>
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科指導の基礎理論を修得する。</li> <li>・スクール・サポーター等の積極的な参加をとおり、教育現場での授業や行事の補助を行いながら、教職を目指す者としての実践力を高める。</li> <li>・理科教育法I～IVの履修を通じて、理科の指導法を学ぶ。</li> <li>・専門科目の履修を通じて、環境・エネルギー工学の各分野における高度な専門知識を習得する。</li> <li>・環境・エネルギー工学実験1の履修を通じて、実験の概念、計測・測定・観察等に用いる分析装置の原理と手法を習得するとともに、解析データを理論立てて説明・考察し、結論を導く能力を身につける。</li> </ul>
	後期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬授業等を行うことによって、実際の現場で授業を行うことができる実践的な力量を身に付ける。</li> <li>・教育実習が可能となる指導力を身に付ける。</li> <li>・理科教育法I～IVの履修を通じて、理科の指導法を学ぶ。</li> <li>・専門科目の履修を通じて、環境・エネルギー工学の各分野における高度な専門知識を習得する。</li> </ul>
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習時の諸注意や学校で留意すべき事柄などを理解し、教育実習生としての姿勢を再確認する。</li> <li>・教育実習に参加し、豊かな授業実践力、さまざまな教育課題に向き合う力、生徒指導力等、これまで培ってきた能力を十分に発揮する。</li> <li>・専門科目の履修を通じて、環境・エネルギー工学の各分野における高度な専門知識を習得する。</li> </ul>
	後期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各個人の資質や、養ってきた能力を有機的に統合し、教職課程の仕上げを行う。</li> </ul>

様式第7号ウ（教諭）

&lt;理工学部環境・エネルギー工学科&gt;（認定課程：中一種免（理科））

(2)具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
年次	時期	各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
1年次	前期	教職入門	力学基礎		スポーツ健康マネジメント演習Ⅰ	工学のための数学1
			化学1		IT基礎	
			生物学通論Ⅰ			
			地球科学1			
	後期	教育原論	化学2		スポーツ健康マネジメント演習Ⅱ	工学のための数学2
		教育心理	生物学通論Ⅱ		日本国憲法	
			地球科学2		AI・データサイエンス入門	
			ラボラトリー・フィジックス		IT応用	
2年次	前期	教育社会行政論	電磁気学基礎	学校経営と学校図書館	中級英語Speaking	工学のためのIT
		特別支援教育論	基礎生物学実験	読書と豊かな人間性	中級英語Presentation	環境科学
		道徳指導法	地学実験	情報メディアの活用		
			科学実験基礎			
			有機化学A			
	後期	教育課程論	ラボラトリー・ケミストリー	学校図書館メディアの構成	中級英語Speaking	固体科学入門
		生徒指導法(進路指導含む)	地学実験	学習指導と学校図書館	中級英語Presentation	
		教育の方法・技術(ICTの活用含む)	有機化学B			
		人権教育論	天文学入門			
3年次	前期	特別活動・総合的な学習の時間指導法	環境・エネルギー工学実験1			研究における安全と倫理
		理科教育法Ⅰ	量子化学			高分子合成化学
	後期	理科教育法Ⅰ				環境・エネルギー工学実験2
		理科教育法Ⅱ				環境材料工学
		理科教育法Ⅲ				材料電気化学
		理科教育法Ⅳ				
4年次	前期	教育実習Ⅰ・Ⅱ				光材料工学
						電子材料工学
						環境・エネルギー工学卒業研究
	後期	教職実践演習(中・高)				環境・エネルギー工学卒業研究

## 様式第7号ウ

＜理工学部環境・エネルギー工学科＞（認定課程：高一種免（理科））

## (1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>我が国の教員免許状制度のあり方や、本学のプログラムを理解する。</li> <li>教職の意義や役割について考えることで、教職に就くことの各自の適性について考える。</li> <li>自然科学分野の基礎科目の履修を通じて、高校で習得した知識の確認をしつつ、専門知識を学ぶ土台を形成する。</li> <li>通論科目の履修を通じて、幅広い教養と自然科学に関する基礎学力を習得する。</li> </ul>
	後期	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員免許状の取得意志を確認する。</li> <li>教育の理念や思想、歴史を学ぶことで、教育に関わる者の生き方を考える。</li> <li>引き続き基礎科目の履修により、専門知識を学ぶ土台を形成する。</li> <li>ラボラトリー・フィジックスの履修を通じて、物理学実験における理論、原理、データの取扱い、レポート作成など一連の実験手法を身につける。</li> </ul>
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員免許状の取得意志を明確にした上で学ぶ。</li> <li>教職の基礎的理論を学ぶ。</li> <li>教員となった場合の具体的な指導のあり方について学ぶ。</li> <li>専門科目の履修を通じて、環境・エネルギー工学の専門知識を学ぶ。</li> <li>科学実験基礎の履修を通じて、実験において薬品を取り扱うに当たっての安全とマナーを身につけるとともに、正確かつ効率的に実験を進めるための手法や考え方を習得する。</li> </ul>
	後期	<ul style="list-style-type: none"> <li>スクール・サポーター等の積極的な参加をとおり、教育現場での授業や行事の補助を行いながら、教職を目指す者としての自覚を高める。</li> <li>引き続き専門科目の履修を通じて、環境・エネルギー工学の専門知識を学ぶ。</li> <li>ラボラトリー・ケミストリーの履修を通じて、化学実験における理論、原理、実験操作、データの取り扱い方および解析方法を学ぶとともに、レポート作成を通じて論理的な思考力を身につける。</li> </ul>
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科指導の基礎理論を修得する。</li> <li>スクール・サポーター等の積極的な参加をとおり、教育現場での授業や行事の補助を行いながら、教職を目指す者としての実践力を高める。</li> <li>理科教育法I～IVの履修を通じて、理科の指導法を学ぶ。</li> <li>専門科目の履修を通じて、環境・エネルギー工学の各分野における高度な専門知識を習得する。</li> <li>環境・エネルギー工学実験1の履修を通じて、実験の概念、計測・測定・観察等に用いる分析装置の原理と手法を習得するとともに、解析データを理論立てて説明・考察し、結論を導く能力を身につける。</li> </ul>
	後期	<ul style="list-style-type: none"> <li>模擬授業等を行うことによって、実際の現場で授業を行うことができる実践的な力量を身に付ける。</li> <li>教育実習が可能となる指導力を身に付ける。</li> <li>理科教育法I～IVの履修を通じて、理科の指導法を学ぶ。</li> <li>専門科目の履修を通じて、環境・エネルギー工学の各分野における高度な専門知識を習得する。</li> </ul>
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習時の諸注意や学校で留意すべき事柄などを理解し、教育実習生としての姿勢を再確認する。</li> <li>教育実習に参加し、豊かな授業実践力、さまざまな教育課題に向き合う力、生徒指導力等、これまで培ってきた能力を十分に発揮する。</li> <li>専門科目の履修を通じて、環境・エネルギー工学の各分野における高度な専門知識を習得する。</li> </ul>
	後期	<ul style="list-style-type: none"> <li>各個人の資質や、養ってきた能力を有機的に統合し、教職課程の仕上げを行う。</li> </ul>

様式第7号ウ（教諭）

＜理工学部環境・エネルギー工学科＞（認定課程：高一種免（理科））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職入門	力学基礎		スポーツ健康マネジメント演習Ⅰ	工学のための数学1
			化学1		IT基礎	
			生物学通論Ⅰ			
			地球科学1			
	後期	教育原論	化学2		スポーツ健康マネジメント演習Ⅱ	工学のための数学2
		教育心理	生物学通論Ⅱ		日本国憲法	
			地球科学2		AI・データサイエンス入門	
			ラボラトリー・フィジクス		IT応用	
2年次	前期	教育社会行政論	電磁気学基礎	学校経営と学校図書館	中級英語Speaking	工学のためのIT
		特別支援教育論	基礎生物学実験	読書と豊かな人間性	中級英語Presentation	環境科学
			地学実験	情報メディアの活用		
			科学実験基礎	道徳指導法		
			有機化学A			
	後期	教育課程論	ラボラトリー・ケミストリー	学校図書館メディアの構成	中級英語Speaking	固体科学入門
		生徒指導法(進路指導含む)	地学実験	学習指導と学校図書館	中級英語Presentation	
		教育の方法・技術(ICTの活用含む)	有機化学B			
		人権教育論	天文学入門			
3年次	前期	特別活動・総合的な学習の時間指導法	環境・エネルギー工学実験1			研究における安全と倫理
		理科教育法Ⅰ	量子化学			高分子合成化学
	後期	理科教育法Ⅰ				環境・エネルギー工学実験2
		理科教育法Ⅱ				環境材料工学
		理科教育法Ⅲ				材料電気化学
		理科教育法Ⅳ				
	4年次	前期	教育実習Ⅰ・Ⅱ			
						電子材料工学
						環境・エネルギー工学卒業研究
後期		教職実践演習(中・高)				環境・エネルギー工学卒業研究